

史跡整備の理念

本市まちづくり指針「しのぶの里に自然と人情が織りなす人間尊重都市 ふくしま」にもとづき、阿武隈川と豊かな自然に囲まれ、縄文人が2000年間にわたり生活を営んだ宮畑遺跡を「市民協働によるまちづくり」として整備する。

田園風景の中で縄文時代の遺跡整備をととした地域の景観的な核の創出
福島市の新たな魅力の創出の場、地域づくり、人づくりのひとつの核の創出



- ・ 市民が集い、活動する縄文景観の創出
- ・ 地域に愛され、地域に根ざした史跡
- ・ 生きる力の育成の場、自然の中でのこどもの遊びを取り戻す場
- ・ 先人が築き上げてきた地域性豊かな歴史や文化に触れる場
- ・ 福島の良さの再発見、新たな魅力の創出とまちづくりの場

史跡整備の基本方針

宮畑遺跡の保全と本質的価値を伝えるとともに、市民のみなさんが新たな感動をおぼえ、利用者の幅広い要求にこたえることができる場である「市民とともにつくり、そして成長する宮畑遺跡」の創出を目指す。

- (1) 縄文時代晩期の風景を伝えながら、史跡の保全を図る。
- (2) 縄文時代の風景に触れながら、当時の生活を体験的に理解できる場とする。
 - ・ 自然環境を含めた縄文時代晩期集落の風景を復元し、五感による縄文時代の生活を理解する。
- (3) 福島市の地域性の礎となった先人の生活を振り返り、郷土の歴史を見つめ直す場とする。
 - ・ 縄文時代晩期の風景とともに、現在まで脈々と続く人々の生活と自然環境を伝え、郷土の良さの再発見に寄与する。
- (4) 宮畑遺跡の魅力について市民とともに考え、地域に根ざしたまちづくり・地域づくり・生きる力育成の拠点施設とする。

- ・ 文化的観光資源として
- ・ 多様な事業展開の場として
- ・ 市民の活動の場として
- ・ 学習・体験の場として
- ・ 市民の憩いの場として